

第24期

同窓会ニュース

佐久総合病院看護専門学校

令和4年9月24日

発行

長野県厚生連佐久総合病院

看護専門学校同窓会

佐久市臼田 2238

発行責任者

永井久子



変化の時代に

佐久総合病院看護専門学校長



渡辺 仁

コロナ禍も3年目に入りましたが、この短期間で看護学校は大きく変わりました。

まず授業の形が変わりました。WiFi環境の整備や業者とのやり取りなど、ハードとソフトの両面に渡り、オンライン授業が可能な環境を、全職員が協力して整備してくれました。おかげで現在は、感染状況に応じて、授業を休むことなく継続することができるようになりました。

次に、2人1部屋を原則としてきた寮運営です。感染対策上、部屋を簡易的に区切り個室化をすすめると同時にアパートの部屋を借り上げております。寮の老朽化も考えると、今後アウトソーシングを中心に検討を進めていく予定です。

就学人口が減少する中で県内の看護大学は増えており、本校入学者が確実に減少しています。時代の変化に対応しながらも、いかに建学の精神を失わず、看護学校の魅力を伝え継承していくのか、今が正念場と考えております。皆様のご理解とご支援を、引き続きよろしくお願いいたします。

いのちの学び

ひとすじこ



村松 さつき

佐久総合病院看護専門学校
副校長

日頃より看護専門学校の運営におきまして、ご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。現在、国内では新型コロナウイルス感染症の第7波の只中にあり、長野県内の病床使用率は「医療非常事態宣言」の基準を超えている状況にあります。同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

本校は昭和35年の創立以来62年の歴史を数え、この3月に60期生が卒業し同窓生は4,972名となりました。看護職が従事する多彩なフィールドの中で、本校の卒業生が活躍されている様子を伺う度に大変うれしく思うとともに、各事業所の皆様には卒業生一人ひとりを大切に育てていただき感謝の念に堪えません。

少子高齢多死社会を迎え、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの

推進が進められる中で、看護職員には対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められています。そのような中、看護学校では今年度より第5次改正カリキュラムによる教育が開始され、コミュニケーション能力やICTの活用技術、臨床判断能力等に必要となる基礎的能力を強化するための教育内容を組み立てています。

本校は、長年にわたり厚生連医療活動を担う看護師の育成および看護師不足を解消するために33期生より1学年の定員を80名で運営してきました。この数年は18歳人口の減少や大学進学志向の流れが加速し、年々入学者が減少しています。現在は定員数に関することや、老朽化している施設整備等に関する課題について、社会情勢を踏まえてつつ今後の方向性を検討しております。本校の大切な伝統を守り、長野県厚生連医療を担う人財育成にしっかりと取り組んでまいります。そのためにも、同窓生の皆様のお力をお借りしたいと思っております。

最後になりますが、今年度カリキュラムの改正に合わせ7月に学校のホームページをリニューアルし、同窓会のページを新設しました。ぜひこの機会にホームページをご覧ください。現在

の看護学校の雰囲気を感じていただければと思います。今後とも本校の学校運営にご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

つながりを 感じながら

佐久医療センター 第一科 47期生卒業
佐藤 利恵

看護学校を卒業して早いもので12年を迎えました。その間に大学進学し助産師となり私も妊娠・出産を経験し大きな学びになりました。また同級生が看護学校で教員として指導していたり、臨床指導者として現場で後輩へ指導している姿が多くなり、自分も切磋琢磨しながら仕事をしています。コロナ禍でなかなか同級生と会うことが少なくなりましたが、病棟へ学生と一緒に来たときに少しでも会えることがとても心強く感じます。音楽サークルにも所属していますが、なかなか練習にも参加できず仲間とともに演奏することができず寂しいですが、院内で出会うと今日も1日頑張ろうと活力になります。コロナが落ち着き、また仲間

と会える日が来ることを待ち遠しく思う今日この頃です。医療現場はまだまだ厳しい現状が続きますが、自分の仕事に誇りを持ち、患者様に寄り添い、共感できる看護師・助産師になれるよう日々精進していきたいと思っています。

こもる医療センター 最近の出来事

浅間南麓こもる医療センター 中央手術室
土屋 忍

小諸厚生総合病院から浅間南麓こもる医療センターとなり、5年目となりました。コンパクトシティー構想に基づき市の主要な施設が集約され、当院もその一施設として地域に根差した病院づくりをしています。

さて、今年度は佐久総合病院看護専門学校から5人の卒業生を迎えることが出来ました。皆さん戸惑いながらもありますが、看護の現場で頑張っている姿を見かけます。

当院では、年に3〜4回の看護部定例会を行っています。通年ですと、年度初めには新人紹介を職場ごと行っていたのですが、この2年間出来ていま

せん。コロナ禍の中、人が集まらない状況ではありますが、今年度は看護部長を始め担当スタッフの創意工夫により3年ぶりに各職場で新人をビデオで収録し上映するという形で新人紹介を行うことが出来ました。このような取り組みの中から、少しでも職場内や職場を越えての交流につながれたらと思っています。

病院機能評価を 終えて思うこと

南長野医療センター篠ノ井総合病院

山田ゆかり

南長野医療センター篠ノ井総合病院では、6月16日・17日機能評価審査を受けました。前回2017年から5年たち、各部門や各職場でのマニュアルの見直し、環境整備、感染対策、記録の見直しなど、再度確認することができました。機能評価審査を受けることは大変ですが、病院の理念でもある、患者本位の医療の実践につながるためには、必要な審査なのだと感じました。

新型コロナウイルスの終息が見えない中、日

頃のストレスが解消しない日々を過ごしている方が多いと思います。私は、感染が落ち着いたら、屋外のビアガーデンで生ビールを飲むこと、温泉旅行に友人と行くこと、ライブに行くなど頭に思い浮かべています。

さて先日看護協会の研修の時に、あゆみ寮で同室だった1年先輩にお会いしました。お互い年を重ねましたが、顔を見た瞬間、学生時代共に過ごした4人部屋が浮かび、気持ちいその時代に戻り、うれしさと懐かしさを感じました。

卒業6年目を迎えて

北アルプス医療センターあづみ病院 55期

北林 瑠美

看護学校を卒業して5年と数か月が経過しました。卒業するときに思っていた6年目の看護師像とは少し違っています。看護師を続けられていることに、自分自身この仕事が好きなんだなと思っています。

現在働いている病棟は精神科病棟です。異動になった際に部長さんに言われたのは「精神科は自分自身と向き合

える場所」と言われました。実際働きだして患者さんを通し、自分自身を見直す機会が多くあります。反省する点多々ありますが現在の病棟にいることで得たものも沢山あるように感じます。

臨床にでたことで学生時代よりも一人の患者さんに向き合う時間は減ってしまいました。しかし自分の観察、言動が医療につながることもあります。時間がなからといって同じ病気としてみるのではなく一人ひとりを理解し看護していくのが大切だと思えるようにもなりました。看護師という仕事は大変ですが、やりがいもあり、少しでも理想としていた看護師になれるよう日々を過ごしていきたいです。

コロナ禍に於いての 同窓会活動

一科17期生 同窓会長

永井 久子

佐久総合病院看護専門学校の同窓会長を就任するとともに、コロナ感染が始まり、その拡大とともに学校の行事もことごとく中止となりました。

学生たちにとっては、この行事一つ一つがこれから待ち受けている社会生活においてとても大切なことだと思うのですが、本当に残念でなりません。同窓会長としてもこの3年間何も出来なかったことに悔いは残りますが、任期3年という会則の中で引き継ぐことになりました。

近年4年制の看護大学への進学希望者が多く、看護専門学校としては志願する学生が激減していく中、一昨年に佐久看護専門学校は60周年を迎えることが出来ました。この60年間で約5000人余りの卒業生を送り出し、様々な年齢層の方が様々な場所で活躍されています。このコロナ禍においてこれ程看護職が必要とされたことはありません。若月学校長が築き上げられたこの学校で学び、「いのちの学びひとすじに」を胸に秘め、何処でもどんな時にでも活躍できる看護職として誇りを持っていききたいと思えます。今後とも同窓会へのご支援を宜しくお願いいたします。



近年再構築が済んだ各病院



病院外観

**長野松代
総合病院**
Nagano Matsushiro
General Hospital

1952年に「松代病院」として開設され、今年70周年を迎えます。南長野地域の基幹病院として、これからも地域に信頼され、愛される病院として進化を続けています。また、医療のみでなく療養に適した『癒しの空間』も提供できるよう整備しています。

癒しの空間



屋上庭園

屋上庭園では、患者さんやご家族が静かな時間を過ごすことができるような環境を提供しております。

正面玄関からはいりますと、すぐに中庭をご覧ください。中庭では、色とりどりの花々や草木が色鮮やかに咲き誇っております。



中庭



図書コーナー

日当たりの良い空間です



正面玄関

朝・昼・夕には、自動演奏の音色が癒しを与えてくれます

附属若穂病院

2007年に長野市若穂に開設され、15年を迎えました。地域に愛される病院を目指して取り組んでおります。



病院外観



病院正面玄関



1Fラウンジ

自然環境豊かな若穂の地で医療療養病床を有し、慢性期医療を提供しております



鹿教湯三才山 リハビリテーションセンター

Kekeyu-Misayama
rehabilitation center

JA長野厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンターは、3年後を目途にセンター三才山病院(237床)の機能を同センター鹿教湯病院(416床)にすべて移し完全統合するべく再編成建設工事が進んでいます。

今般の再編成計画は、診療機能がある程度維持しながらスクラップアンドビルド方式で計画されており、最終的には現在の中央診療棟、第二診療棟、西棟、東病棟及び義肢装具棟は解体され、新

たに地上八階建、延床面積15,970㎡の新棟を増築する計画です。また、今回の再編成工事に合わせて令和5年4月には三才山病院の機能を鹿教湯病院に統合し、新たに475床の病院として再出発し、上田・松本両地域を中心とした皆様方の負託にお応えすべく、新たな体制の強化を図ります。完成は令和6年12月の予定です。今後も地域の皆様が安心して質の高い保健・医療・福祉を受けられるよう努めて参ります。





富士見高原 医療福祉センター

Fujimi Kogen Hospital



老人保健施設・地域密着型特別養護老人ホームきりとう
全室個室で家庭的なケアを提供



小規模多機能居宅介護・グループホームひめばら
八ヶ岳のふとこで、心豊かな暮らしを提供

富士見高原医療福祉センターは、富士見・原・諏訪・伊那・両小野の5つの事業部からなり、それぞれの事業部が、病院・診療所・老人保健施設・特別養護老人施設・グループホーム・保育園を運営しています。2018年4月両小野に老人保健施設・地域密着型特別養護老人ホームきりとう、2021年4月原村に小規模多機能居宅介護・グループホームひめばらが開所しました。地域のトータル的な医療福祉の提供を心がけています。



厚生連病院統一の白衣
4月から着用しています。



下伊那 厚生病院

Shimoina
Kosei Hospital

今年度、新しい看護部長を佐久総合病院小海分院より迎えました。看護部長と共に看護部一丸となって頑張っています。



2022年3月に透析室の透析監視装置を更新しました。

地域の中学校で行われた「しごと☆未来フェア」に参加しました。昨年までは看護部のみの参加でしたが、今年度は色々な職種が参加しました。



介護医療院で行われた「夏祭り」の様子です。利用者さんも楽しい時間を過ごすことができました。

お知らせ

1. 転居時の届出について

住所氏名の変更は必ず事務局までお知らせ下さい。
 メール sakukan@sakuhp.or.jp
 TEL 0267-82-2474 FAX 0267-82-2152

2. 同窓会員の死亡時の対応について

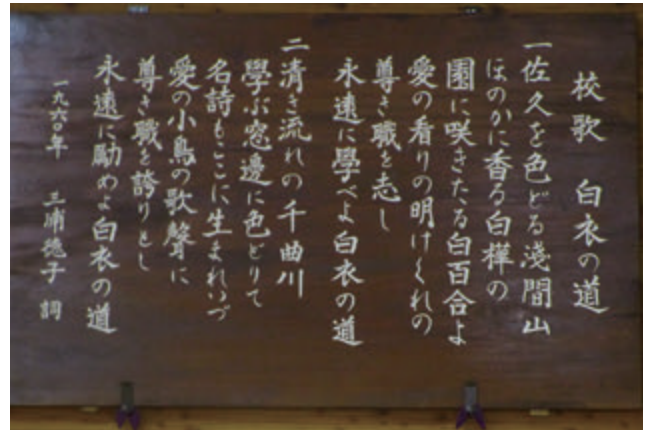
定年前

生花一基、弔電（あわせて二万円以内）

定年退職後

弔電（五万円以内）

訃報の連絡は、同級生またはご家族より看護学校へお願いします。
 ご連絡をいただいた方について同窓会費より死亡弔慰金として対応させていただきます。



校歌 白衣の道

役員	第24期役員	第25期役員
会長	永井久子	小松孝子
副会長	吉川京子 土屋明由実	永井久子 佐藤史江
書記	森山利恵 立島勇気	黒澤悠子 清瀧すみれ
会計	山口みき子 飯沼幸子	佐塚友美
会計監査	高見沢広裕 伊藤裕子	橋爪満紀子
事務局	坂本静愛 原田愛	原田愛美 遠藤琴美

支部	第24期役員	第25期役員
浅間南麓こもろ医療センター	土屋忍	竹内悠人
北アルプス医療センターあづみ病院	降旗理恵	若林三枝
長野松代総合病院	北澤佐智子	緑川洋子
北信総合病院	今井美保	横村由里子
鹿教湯三才リハビリテーションセンター	鈴木伸明	松本美香
南長野医療センター新町病院	峰村順子	峰村順子
南長野医療センター篠ノ井総合病院	山田ゆかり	
富士見高原病院	小林明美	原田清岳
下伊那厚生病院	松澤直美	岡田真弓

あしがき

同窓生の皆様、今回の同窓会ニュースはいかがだったでしょうか。
 佐久総合病院の再構築も終わり本院も様変わりしています。
 コロナ禍で恒例行事の病院祭が開催されず、皆さんに新しくなった病院を見ていただけないのが残念です。
 看護学生も感染拡大で病院実習が行えず現場に出て苦労していますが、新人を育てるために師長をはじめとする管理者や、実地指導者が優しく寄り添っています。
 佐久総合病院看護専門学校は現在60期生 約5000人が卒業し長野県厚生連中心に各医療機関で多く活躍されています。
 コロナの爆発的な拡大により医療は逼迫しており皆さんご苦労されていることと
 思います。感染防止の徹底を行い、早期終息と同窓生の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

